

# 2019年度 第2回子ども・子育て会議議事【顛末】

2019年8月28日（水）18:30～21:15  
富良野市立図書館 3階会議室

## 1. 開 会 進行：松木

## 2. 会長あいさつ（青木会長）

→今後の幼児教育の課題として、少子化に伴って5歳児の就学を上げるという話題が上がっている  
幼児の発達には教科書がないゆえに環境に影響される。  
その年代で学びが始まることに危惧している  
また、国際化に伴って9月からの入学の話題も出ている  
今日は大きく2つの議題で進めますので、活発な議論をお願いしたい

## 3. 報告事項

→特になし

## 4. 協議事項

### （1）子ども・子育て支援計画2025の骨子および量の見込みについて . . . . 別紙

→①こども未来課：松木より骨子案【資料1】

②株式会社ぎょうせい廣田氏：人口シュミレーションについて説明【資料2】

以下、各委員からの意見（敬称略）

委 員：5Pバックキャストの意味が分からない。横文字は注釈をつけたほうがいい

事務局：バックキャストは、将来像から遡って計画を立てる手法。

現状の積み上げではなく、未来像から検討する手段です。

ご指摘のとおり、なるべく横文字をなくして、注釈をいれていきます

委 員：2040年には子どもが半分になる。富良野市の少子化のビジョンではこういった予測を？

事務局：2020年までに出生数を180人（現在150人前後）する人口ビジョンを2016年に立てた

出生数に若干の改善は見られるが道半ばで、目標には大きくギャップがある

何もしなければ、負の連鎖から生活が成り立たなくなる地域が出てくる

委 員：8Pの満足度ですが、かなり低い。驚き

事務局：はい、驚きました。子育て世代が、周囲へサポートを求める切羽詰まった思いやストレスから、通常のアンケートよりも大きくでることを加味しても不満足が高い

子育て計画を立てるときに、この声の集積は無視できないと考え、本計画の出発点とした

委 員：この不満足の下位層を上げていけば、すぐに逆転していくと思われる

事務局：この数字の作り方も中間層「どちらでもない」が多いのですが、このニーズ調査の場合は

よい反応に捉えるのではなく、不満足を解消する視点で不満足に入れさせていただいた

800人中500人は、富良野市の子育て環境に不満足だという出発点に立つ

委 員：では、どうやったら満足するか？という意見は聞いてないのか？

事務局：ニーズ調査では聞いていて、P19「市に具体的に進めてほしい施策」にその意見が反映されていると考えている

満足度を上げるには、上位から順番にその解決策を提案していく。

積み上げていくことが解消につながっていくと考えている

委員：需要と供給のバランスは検討しているのか？

事務局：これからになります。問題は複雑なので、不満足のリニアは状況によって異なる

室内の遊び場も含めて具体的な需要調査は今後取れると思う。

一方で医師の確保などのニーズがあるか？はライフラインとして支えていかなければならないという視点で、継続して確保について検討していく

子育て計画を超えて、福祉計画にも及ぶので保健福祉部と連携して進めていく必要があると、先日の市役所内の各課長との協議時にも確認をしたところ

委員：医師の確保は、病院の問題でもあるので、こちらだけでどうこういう問題でもない  
25歳～40歳の人口が減っているのは全国的な問題ですか？

ここでは、富良野市だけの問題に絞っていた方がいい

事務局：富良野市独自の問題。北海道の自治体の中でも人口を増やしている地域がある

東川・東神楽・上士幌など、ふるさと納税を活用した地域は移住者が増えている

全国一律で減少しているのではなく、投資や発信の努力を変えた地域は成果が見え始めている

医療体制などは、子育て計画の範囲を超えていくので、部をまたいだ協力体制を新たな目標の元、積み上げていく

委員：富良野市の移住政策はどうなっている？

事務局：企画振興課で、移住フェアに出展したり、お試し住宅を用意し受け入れている

また仕事の紹介などを行っている

ただ、現状は幅広い世代を受け入れており、ターゲットを絞っているわけではない

今後は、20代などに絞って呼び込むなどの特色を出す必要がこの人口シュミレーションから明らか

委員：富良野市はひとり親が多い印象がある

事務局：背景には地域の特色としてサービス産業が多く、土日を含めて不規則なため、コミュニケーションが不足がちな点や産業全体の賃金が上がりず世帯収入の問題などが要因の一つにも考えられる

男性側の働き方にも因果関係があると思われる

委員：アンケート調査の上位から保護者目線では何を解決してほしい？

委員：まずは経済的支援

直接的でわかりやすくないではないか？

保護者は近隣の市町村と単純に比較し、わかりやすい施策から不満足につながっているだからといって、近隣の市町村で経済支援を行ったから人口が増えている地域はないのでわかりやすい経済支援がいいとも言えない

ただ、実感としては経済的支援と医療費の控除などはわかりやすい支援と思う

委員：近隣では移住者に家賃補助などの取り組みが目立つ

委員：富良野はなんで医療が無償にならないか？と周りは言っている

委員：子どもの遊び場へのニーズも高い

保護者のコメントはどんなものがあった？

事務局：近隣の旭川や美瑛に行っていて、特に雨の日に子どもを遊ばせる場所がない

冬場も家で過ごしがちになり、子どもの体力向上面でも不安・不満というコメントが

多くあった

- 委員：中富良野のスポーツセンターに安いから行く話を聞いたことがある  
また、東川町の小学校に行ったらすごく立派で、総工費 53 億円と聞いた  
移住策など色々やってると思うが、かけるところにはキチンと投資をする点が  
評価されている  
今度作る新庁舎の 1 階も圧倒的なものを作らなければインパクトがなくてダメだと思う
- 委員：幼児期は遊びこむ時間が必要。そんな場所が必要
- 委員：色々と時間をかけてこの計画を練っていることがわかった  
ただ、5 年で満足度を逆転させるのは無理があるのではないかと  
とても高い目標  
市庁舎 1 階に小さな遊び場ができたくらいでは、この満足度は逆転しない  
やるならば、富良野市として徹底的に子育てに特化した遊び場を作るべき  
ほかの市町村で出生数を上げているところは、出生数ごとに祝い金を出している  
ひとり親に医療控除をするなど、目標を達成するには、徹底した取り組みをこの 5 年で  
やるなどの施策が必要  
日本の出生数全体が減っているので、国内からの移住には限界があるので  
外国の方の移住も視野に施策を立てた方がよい
- 委員：すごい分析をしていて、わかりやすい資料になっている  
様々な問題が連鎖していることがわかった  
保護者は他市町村と比較する。  
あっちの町がいい、こっちの町はどうという情報が行き交っている  
また、若い子育て世代間でも経済格差も広がっている  
教育や子育てにかかるお金に敏感  
さらに富良野は自然環境がいいが、住宅が高い  
住みやすい住宅支援など、他市町村の取り組みを参考に  
学生を取り込み、安定した職場、すべてはやれないので  
安定した生活を保障する取り組み、市全体の取り組みに広がるようにしてほしい
- 委員：幼児教育の充実が重要  
また就労する女性ニーズも増える受け皿づくりが必要  
健康でなければならないなど保健医療と連携するところは大きい  
近隣市町村の情報を市民の方が知っていて、富良野市の取り組みと大きく差がある  
その現状に立って、底上げをしていくことが必要  
P32「おむつ券の 2 歳まで」などはすぐに取り組みめる内容なので  
地道に積み上げていくしかない
- 会長：1～3 の項目についてはよろしいでしょうか？
- 全員：了解
- 会長：次に、P27～4 の施策について意見は？
- 委員：P27 児童館×P21 土曜日の希望が増えている  
児童クラブの運営を今後どうしていくか  
学習指導要領が変わって、自然（自然塾）との触れ合いの時間を増やすことで  
先生の負担を減らすなど、森林学習との連携を積極的に行う富良野市と保護者ニーズにも  
あってくるのではないかと
- 委員：ワークライフバランスをとっていくには企業の努力が重要になってくる
- 委員：ひとり親が増え、こどもの貧困など、具体的にはこども食堂などにも力を入れる必要

がある

お金があるから習い事に通わせることができたり、経済格差が機会を奪っている

委員：10の視点に「持続財源の確保」とは？

事務局：計画が「絵に描いた餅」にならないためには、具体的な事業化が必要。

さらに事業が継続していくには、何事もお金が必要

遊び場を作っても運営費は必要で、富良野以外からはお金を取る仕組みや、観光課で検討する宿泊税と連携して、外からくる観光客にも開放して入場料をとったり、ふるさと納税を活用したりと持続財源の検討も同時に考えていかなければならないという意味

委員：⑨子どもの体力向上では、単なる遊具を置くのではなく、子どもが遊びたくなる動線などを考えて配置するなどのデザイン思考が必要

事務局：先日、市役所の各部との会議の中でも、1～3才時に特化した公園を作る話がでた

現在、衛生面と危険性の管理問題で砂場や危険遊具は撤去されている

そこで、1～3才時に特化した遊具をおく公園を駅の東と西に一つずつ作るなどのアイデアはでていた

外の遊び場も撤去されている状況

公園も年代別ターゲットが必要という意見があった

会長：P28の内容はどうですか？

委員：給食費の補助はかなりの額になりますか？

事務局：額は年数千万単位の補助になると思われます

ただし、給食費をとっていない保護者やへき地保育所もあり、公平性の面からも導入には検討が必要だが、ニーズとしてはあるので、今後も要検討として入れている

近隣市町村でも、給食費無償化を考えているところもある

やりますよ、ではなくニーズがあるので引き続き検討事項として入れている

委員：イクボスイクメンは？

事務局：子育てに理解ある企業＝経営者・上司を育てていく意識の向上が必要として

イクボスを進める民間団体への支援

また短時間労働への理解・企業型保育の拡大などの機運を高める取り組みが

ワークライフバランスには重要という視点で加えた

委員：市役所でも積極的にいき、市民の先導になってほしい

医療のカルテ共有とは？

事務局：現在、病院のカルテは病院間でも共有化できる動きが広がっている

が、保育所や幼稚園側との連携は進んでいない

普段の様子などの共有から病気の予防、保護者を含めた3者間の情報共有により、不安要素を共有する動きがIT化によって可能性が出てきている。技術的には数年後にはデータ共有が可能となる

あわせて、待合室の呼び出しシステムも、待合室で他の子から病気に感染するリスクを避けるニーズがあって、駐車場の車に待機し、呼び出すシステムなどの導入が望まれており、こちらもITの普及によって可能となってきた

医療体制の強化としてニーズ調査の中に入っていたので検討として入れている

委員：子どもの遊び場は新庁舎にできるのか？

事務局：遊び場は1階に予定されているが、広いスペースではなく、0～3歳くらいを対象にせざるをえないスペース

4才～小学生低学年までの発散には向かない

就学後の保護者からも遊び場ニーズは数多くあることから引き続き検討するとして入れたぶどう果汁工場は、今年度でジュースをいったん作らなくなる。

再開するかもしれないが果汁工場の立地・駐車場や施設規模をリニューアルして活用すれば、市内外からも呼べる遊び場になるのではないかとというアイデアから引き続き検討として入れている

まだ各部横断して調整できているレベルではないが、調査候補として入れた

委員：室内の遊び場という声が大きいが、外で遊ぶことも大事

自然の環境のみならず、感性を高める様々な環境づくりが必要で

室内の遊び場だけでなく、室内外の両方を視野に幅広く考える必要性がある

子どもの遊び場というくくりがいいのでは

委員：冬場だけでなく雨が降った場合の居場所がない

屋外の遊び場を予定していて急に雨が降った時に遊べる場所がない

天候に関係なく遊べる場所が必要

幼稚園が団体でも連れていけるような場所を求めたい

会長：P30の重点施策はどうでしょう？

事務局：沢山のアイデアや事業もやるにはヒトとお金と時間のバランスが大事

全てできないのでニーズが高いものから解決したい、として重点項目を設けた

子ども未来課だけでは解決しないので医療体制の確保と財政的支援を入れた

負の連鎖はこの3つだけでは解決しないし、部署を横断した取り組みが必要になるので、

本計画にその旨の提言を入れていくことで、市長部局との連携を図っていく

この重点施策でいいのかを皆様に問いたい

どんなサービスが不足しているのか？ご意見をお聞きしたい

委員：室内の遊び場については、この圏域には遊び場がないので、調整は難しいと思うが、

広域連携（近隣市町村）しては？

経済的支援の財源確保は難しいので、働く場所がなければ住めないのでは

ネット環境の充実により、インターネット企業の誘致や働く場の確保を入れては

観光面を強化している富良野なので、多言語教育と旅行者と子どもたちを結びつける

取り組みをしてはどうか？

委員：富良野市の総合ビジョンとも絡んでくる

委員：公園の再整備はとても重要

委員：室内も室外の両方の再整備など総合的に考えていくことが重要

委員：さらに保護者と一緒に過ごせる環境を作ることが重要

委員：冬場もスキーや外で遊べばいいけど、雨降った時どうするか

委員：子どもと大人も過ごせる居場所づくりの中の図書館とは

事務局：富良野には子どもと大人が一緒にいれる場所がとても少ない

家と学校、家と職場、その中間にあるような居場所を多く作ることが

必要という視点

例えば、図書館も学びの場として位置づけを再構築して、例えば2階を学習室にするとか

3Dプリンターを導入してラボという位置づけにするなど、デジタルを学ぶ新たな場所に

再構築するような取り組みの方向性もある

委員：本の量を増やすとか

事務局：もちろん、本の量も重要です

子どもの絵本コーナーに隣接して、お母さんの読みたい本のコーナーの魅力UPなど

そんな再構築もでてくると考える

委員：今現在、科学的な取り組みなどをやってるのか？

事務局：今現在、図書館ではやっていなくて文化会館で行っている

学びの場を図書館に持ってくるのか、文化会館に持っていかはこれからの議論になると思う

本を通して学ぶ機能の強化は図書館で

現在、スタートブックなどの取り組みと本を通じて具体的な取り組みに生かしていく知恵みたいところは図書館を核として進めていくようなカタチになっていけば、という視点です

会 長：では、最後の P32 に対してご意見は

事務局：このページは最終的にいれないかもしれないが、5 年計画のイメージとして理解してください

会 長：では、人口のシュミレーションについて

委 員：地域拠点型子育て事業とは？

事務局：保健センター1 階の子育て支援センターでの活動全般の見込み量です

委 員：ファミサポは？

事務局：保護者とボランティアによる預かりの仕組みですが、ちょっとした時今後増えることが予想されます

委 員：病気になった時に預かるところがないという声がまわりでも聞こえるのでニーズは高まると思います

委 員：幼稚園型の一時預かりは増える

委 員：無償化に伴い、ますます増えることが予想される

委 員：そのため、保育士の確保が問題

事務局：どれくらい預かりが増えると予想していますか？

委 員：幼稚園のキャパ以上には増えないが、限界までいくと予想する

委 員：毎月増えている、短時間でもお願いしたいニーズが増えている、右肩上がりと思います  
ニーズにあわせて、保育士を増やしていく

幼稚園への数が減っている割には、就労者は増えている状況

事務局：保育士の確保が難しくなっているのではないかと？

委 員：お金を問わなければ人はいる

業者に頼めば 10%手数料で斡旋してくれる

一度に何十万円と取られるけど、そういった保育士専門の斡旋会社に頼むことがある

採用された方にも報奨金が行くので、みんな登録している

よほど人材がいなければ、そういった斡旋会社に登録するところも出てくる

委 員：介護医療の現場はもっとひどいことになっている

25~40%取られる

例えば：介護士の年収 400 万円に対し、業者に 60 万円

介護士に報酬費が 40 万円いく仕組み

半年辞めなければ、介護施設側に計 100 万円は返さなくてもいいが

その斡旋会社から派遣された介護士に限って半年で次から次へと辞めていく

おそらく報奨金狙い。渡り鳥

そういった人は質も悪い

この業界もそうならないか心配

年々その斡旋会社の取り分 (%) が大きくなっている状況で上限を設けてほしい

委 員：札幌などでも 4 月当初に保育士が揃っていないといけないうので斡旋会社で埋めている話を聞く

- 委員：いい人はほとんどこない、半年いたら辞める。の繰り返し  
2年以上を上限にしてほしい
- 委員：保育士の取り合いは激化している  
短大生は1年目の夏から確保が始まっている  
都市部では保育士確保のために家賃助成8万円まで出している  
札幌でも確保に苦戦している状況で富良野に来てもらうには家賃助成などをしないと  
そもそも富良野市の家賃相場は高く5~6万円が相場になっているので  
新卒などの若い世代は家賃が高くて来ない
- 委員：給料が14万~17万の新卒保育士が5~6万円の家賃を払うのは現実として厳しい状況  
半分助成しても3万円  
であれば、旭川の方が住環境の選択肢が多いので、旭川を選んでしまう  
結局、若い人が富良野に来て住むところが高くて続かない
- 委員：旭川市は幼稚園の保育士に家賃補助を出しているらしい
- 事務局：経済的支援も、20~30代の保育士確保や移住施策に優先的に使うことが、結果として質  
の高い保育につながる
- 委員：眠っている（働いていない）保育資格を持っている人は富良野にもまだいると思うので  
そういった方々を短時間でもいいから働いてもらうように掘り起すような施策も必要かと思  
う
- 委員：北海道でも保育資格を持っている方のデータベースをとってこうという動きも出てい  
る  
市立保育園にも若い保育士もいたけど、賃金安い、住宅高い、自分のスキル上げたい。を  
理由に旭川・札幌に出て行ってしま  
う  
若い保育士は、生活の安定を求めている  
若い保育士の生活の安定と充実=市民目線でも富良野は子育てに優しい街につながるの  
ではないか
- 委員：違う町から来るハードルを下げないと、ここで問題になっている20~30代の女性確保に  
はつながっていかない
- 委員：地元出身で多くの教育実習生やインターンが入ってきているが、そういった方々が最終  
的には富良野を選んでいないことが問題  
地元出身でも富良野を選んでいないことをスタートに考えていかないと
- 会 長：では最後のページはどうですか？
- 全 員：了解

事務局：今後のスケジュールですが10月15・16日で調整させていただきます  
本日頂いた意見を整理し、次回最終版に反映し、量の見込み、具体的な施策案を  
整理して議論いただく予定です  
本日は長時間に渡り活発なご意見をいただきありがとうございました

## 5. その他

→次回は、10月中旬（15・16日）の週（同じ時刻）で開催予定（全員OK）  
事前に内容はお送りします